

第 46 回関東ブロック P T A 研究大会 さいたま市大会

報告者
富士市 P T A 連絡協議会
副会長 深澤 大介

平成 26 年 10 月 25 日(土)～26 日(日)

1 日目：第 2 分科会 さいたま市文化センター

研究テーマ 「命」大切にしていますか？

自分と他人の命の大切さについて

講演 全国骨髄バンク連絡協議会 顧問 大谷 貴子 氏

「生きてるってシアワセ！」

2 日目：全体会 さいたま市文化センター

記念講演 歌手 沢田 知可子 氏 「ココロとカラダに優しい歌葉」

今までは通過したことしかない浦和・大宮に初めて行きました。浦和市、大宮市、与野市は平成 13 年の合併で人口 126 万人のさいたま市となりました。大宮スタジアム、駒場スタジアム、埼玉スタジアム 2002、埼玉スーパーアリーナと巨大なスポーツイベント会場を持ち、「日本一スポーツで笑顔あふれるまち」を目指しています。

研究発表は山梨県 P T A 協議会の「山梨県内の各 P T A 活動の取組について」と長野県安曇野市立明北小学校の「子どもたちの防災への意識の向上を目指して」でした。

山梨県は地域ぐるみの交通安全の取組、明北小は近隣小中学校と連携した防災への取組ということを発信していました。

骨髄バンクの大谷氏の講演では大学院生の時に自身が白血病になったこと。骨髄移植で健康を取り戻した後は、骨髄バンクを日本で作る取組にあたり、現在は抗がん剤投与による不妊を防ぐため、「がんと生殖医療」に立ち向かって活動しているという話を聴きました。「生きてるってシアワセ！」と感じて生きて行って欲しいという強烈なメッセージがありました。

2 日目の沢田知可子氏は講演というよりも歌とおしゃべり。「悲しい時は思いっきり涙を流して悲しめばいい」「遠い過去を振り返ることは時間旅行、細胞も若返る」いずれの時も歌は薬のようにカラダにしみ込みますということ。ヒット曲「会いたい」の歌力は人の心を掴むものがあり、感動しました。沢田氏の父も P T A 会長をやっていたということで、激励の言葉をいただき、参加者一同元気をいただきました。